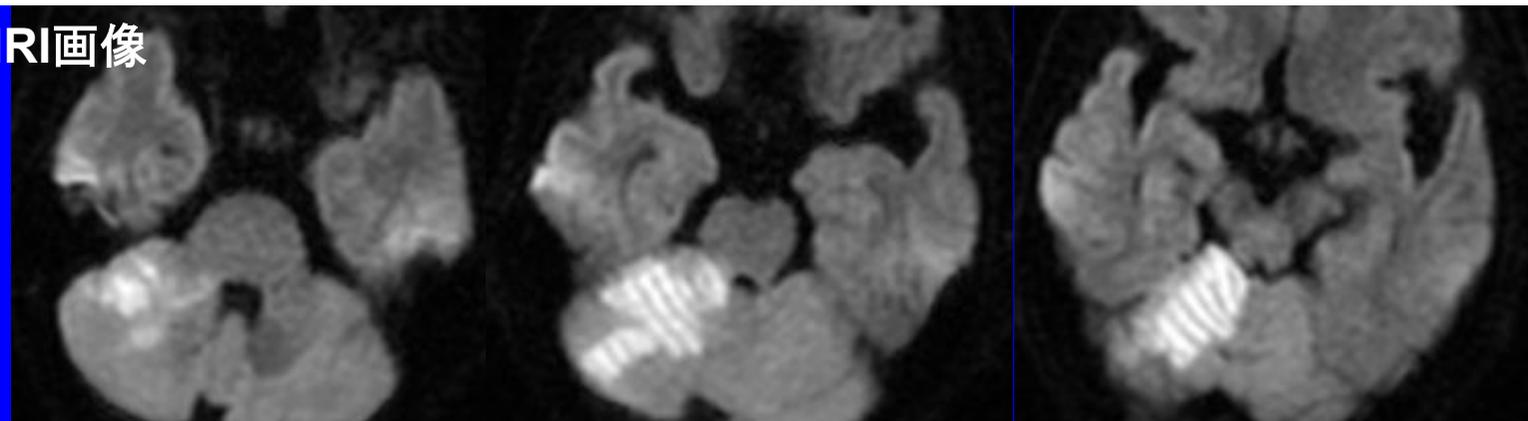


MRI装置

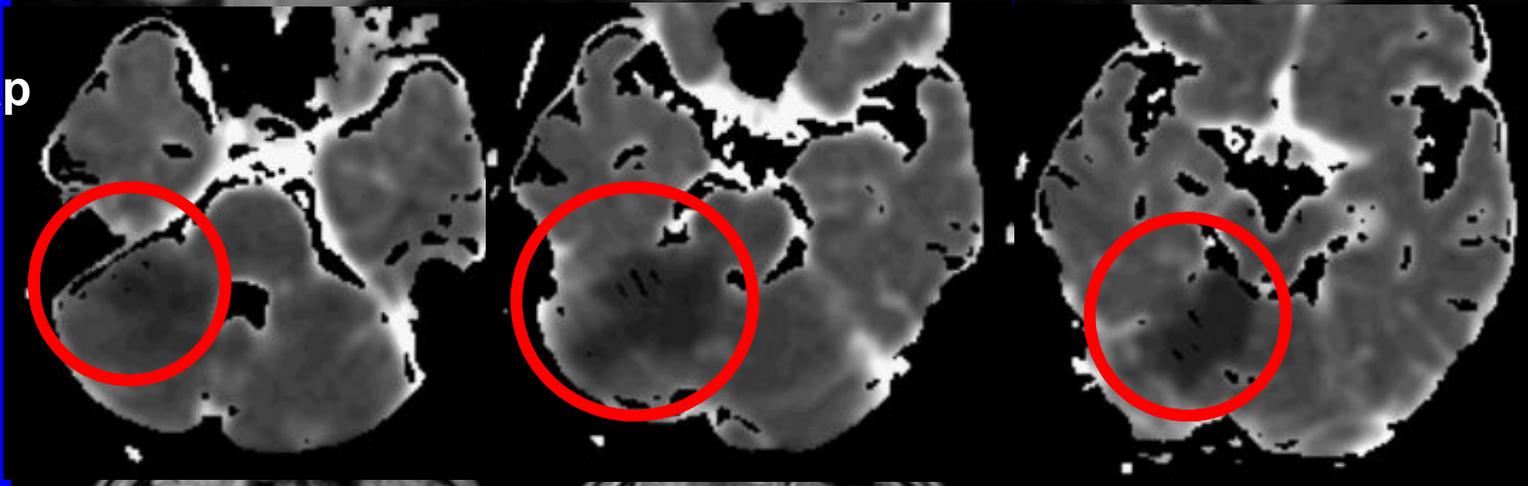
- 当院の装置は、2009年11月に1.5T(テスラ)に更新されました。
- 放射線を使わず、磁場とラジオ波で身体の断面を撮影します。いろいろな角度の画像を撮ることや組織分解能(人体を構成している組織の違いを画像化するのに優れている)が高いのが特徴です。

脳梗塞MRI画像

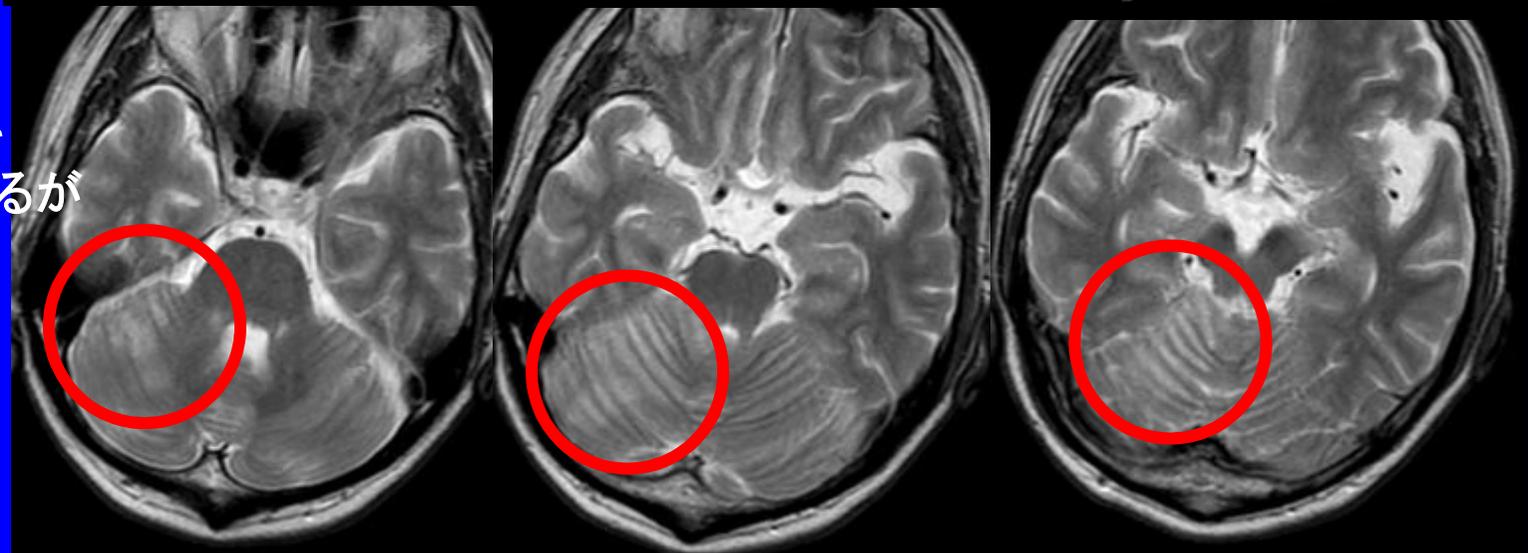
DWI
高信号



ADC Map
低信号



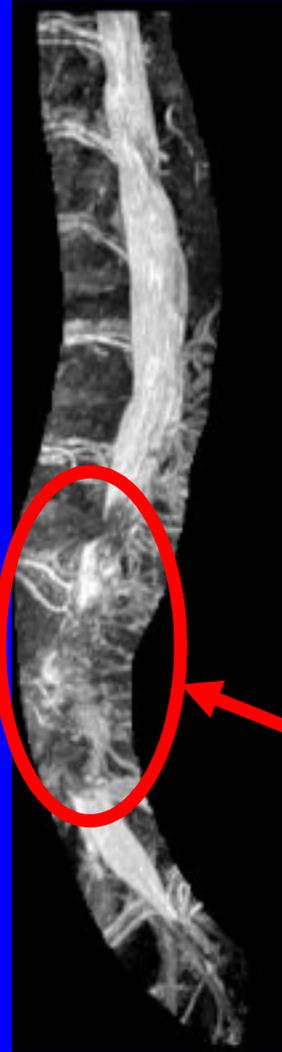
T2 Ax
高信号を呈しているが
少し解りづらい。



- 脊椎 脊柱管狭窄症

ミエログラフィー

造影剤を使用しない撮影で、各方向から見る事ができる。
狭窄部位が一目瞭然です。



水を強調した
画像で脊髄液は
高信号、狭窄部分
は低信号となる。

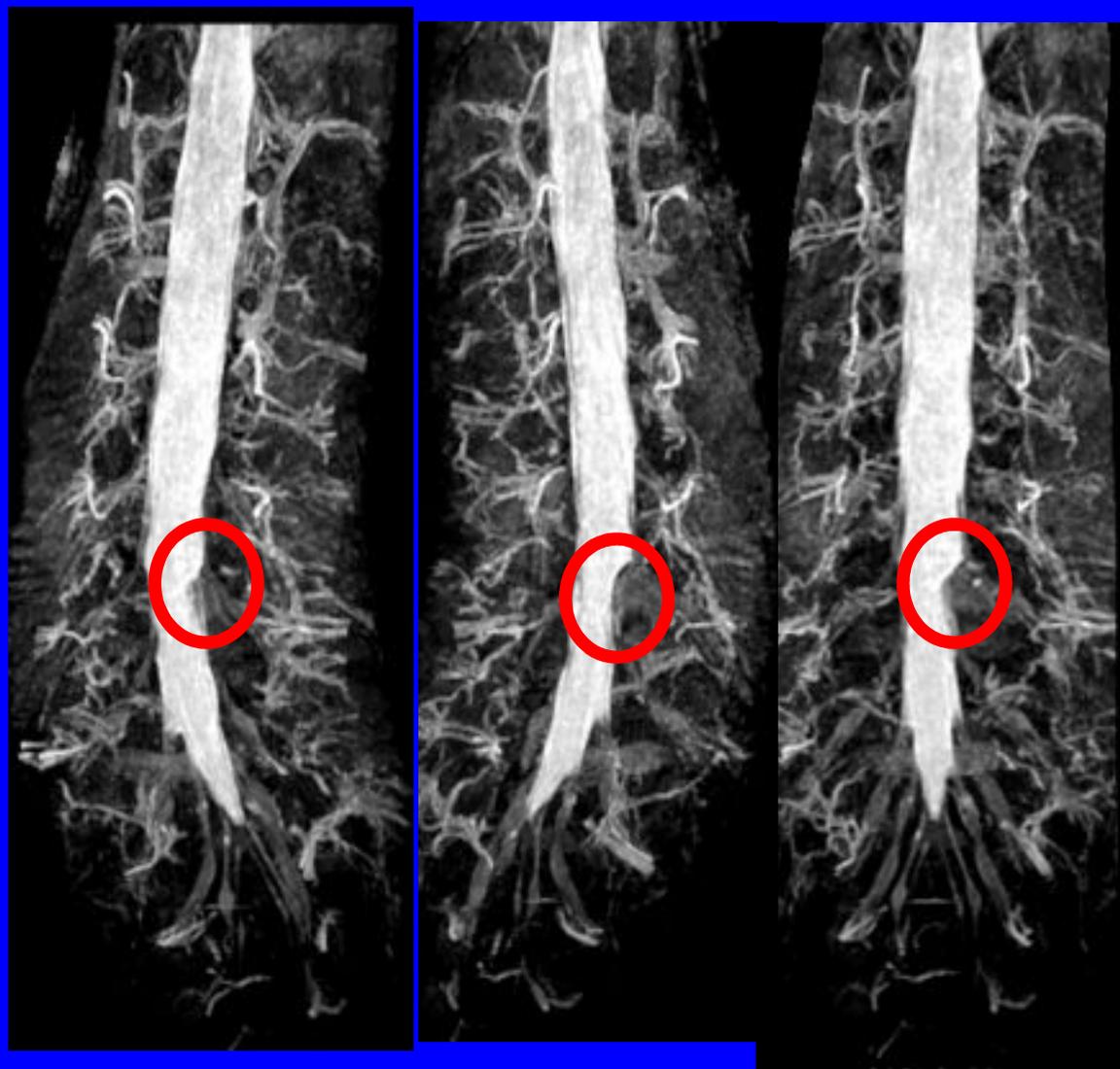
T2 SAG



椎間板ヘルニア

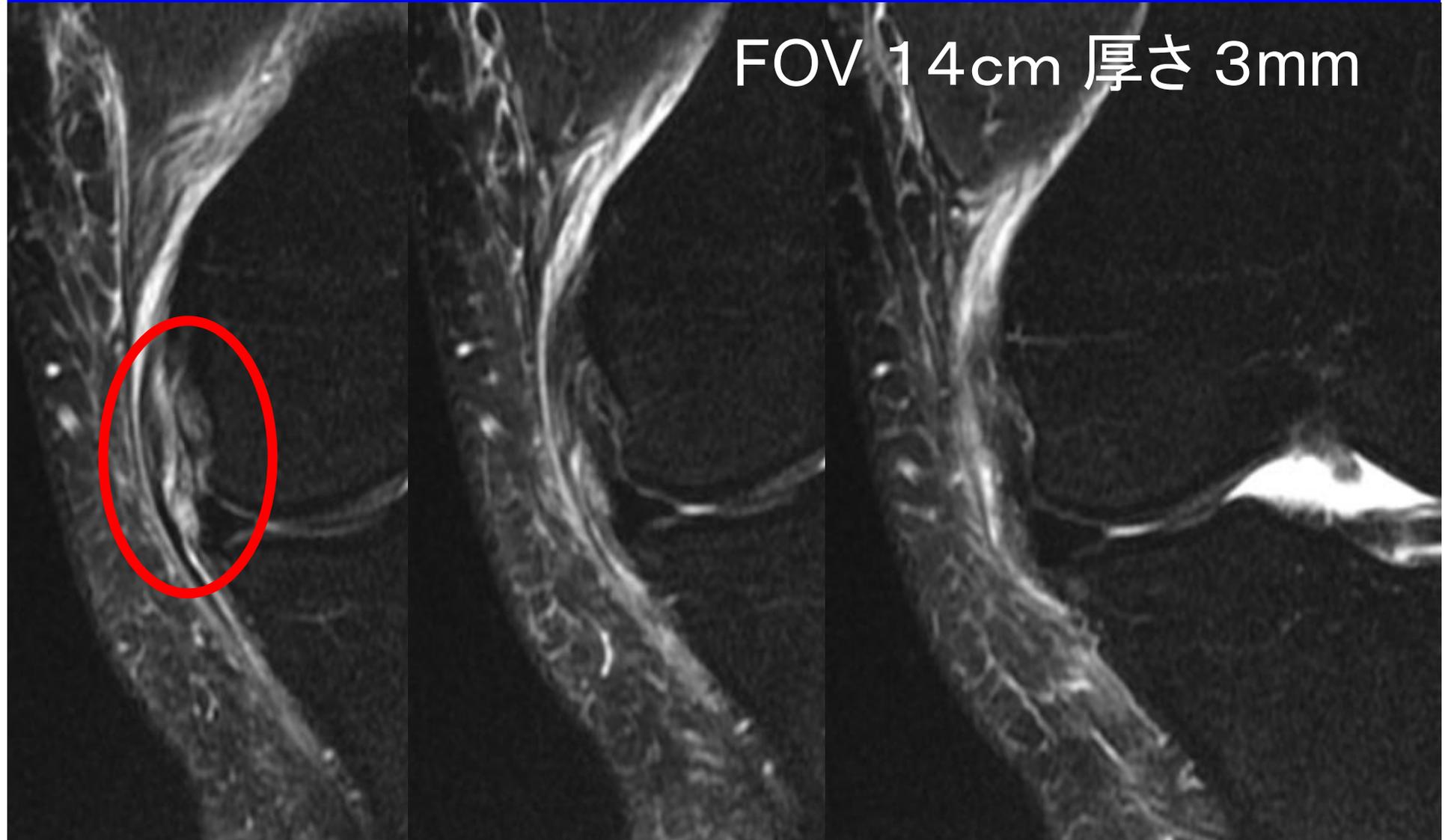
ミエログラフィー

T2 SAG



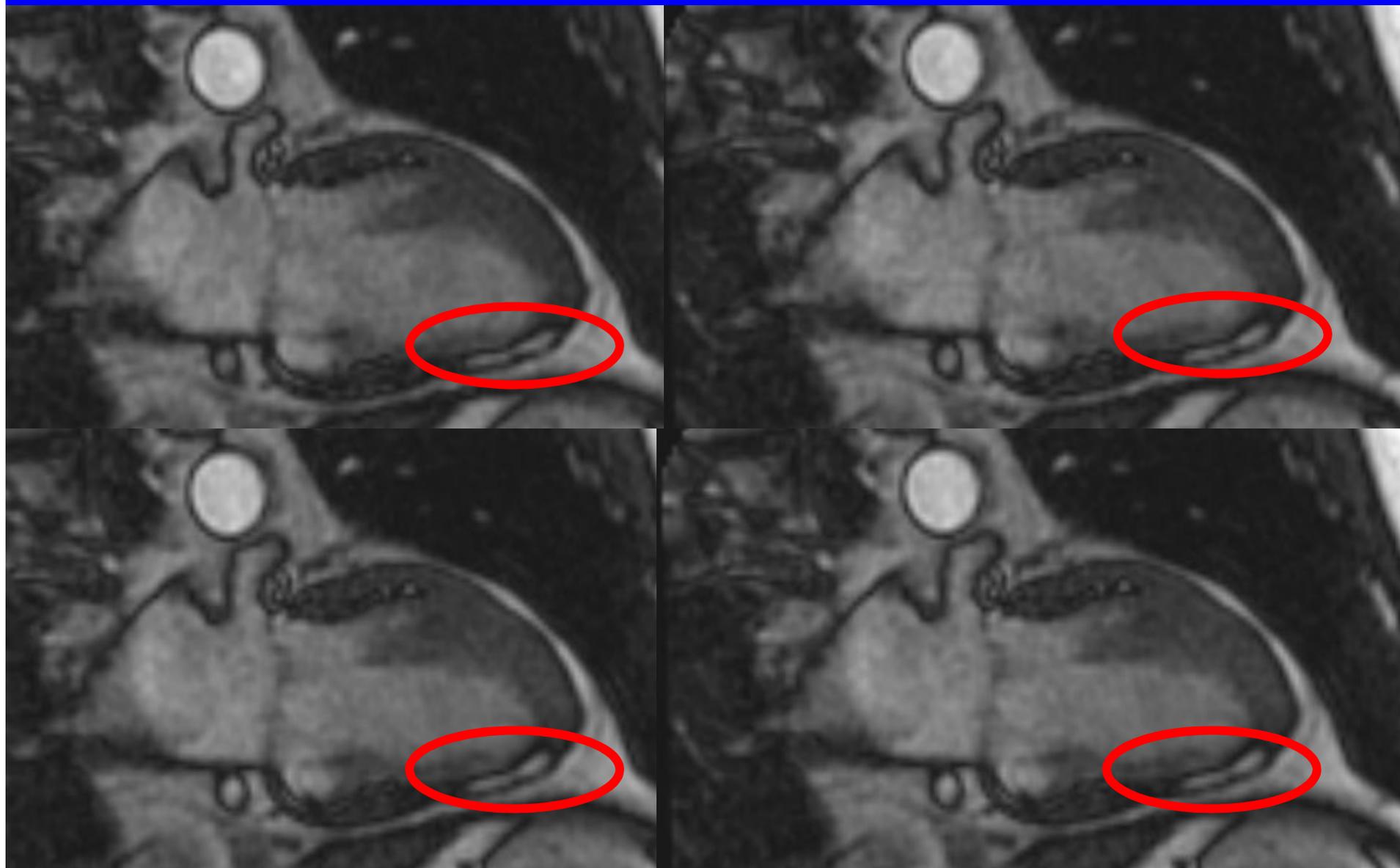
ヘルニア部分は低信号である。

- 膝関節 内側側副靭帯損傷



0. 5Tのときは3mmのスライス厚で撮影すると画像が荒くなり細かな病変は解りづらい画像でありましたが1. 5Tになり、脂肪も均一に抑制でき、また3mmのスライス厚でもきれいな画像になり細かな病変も解りやすくなりました。

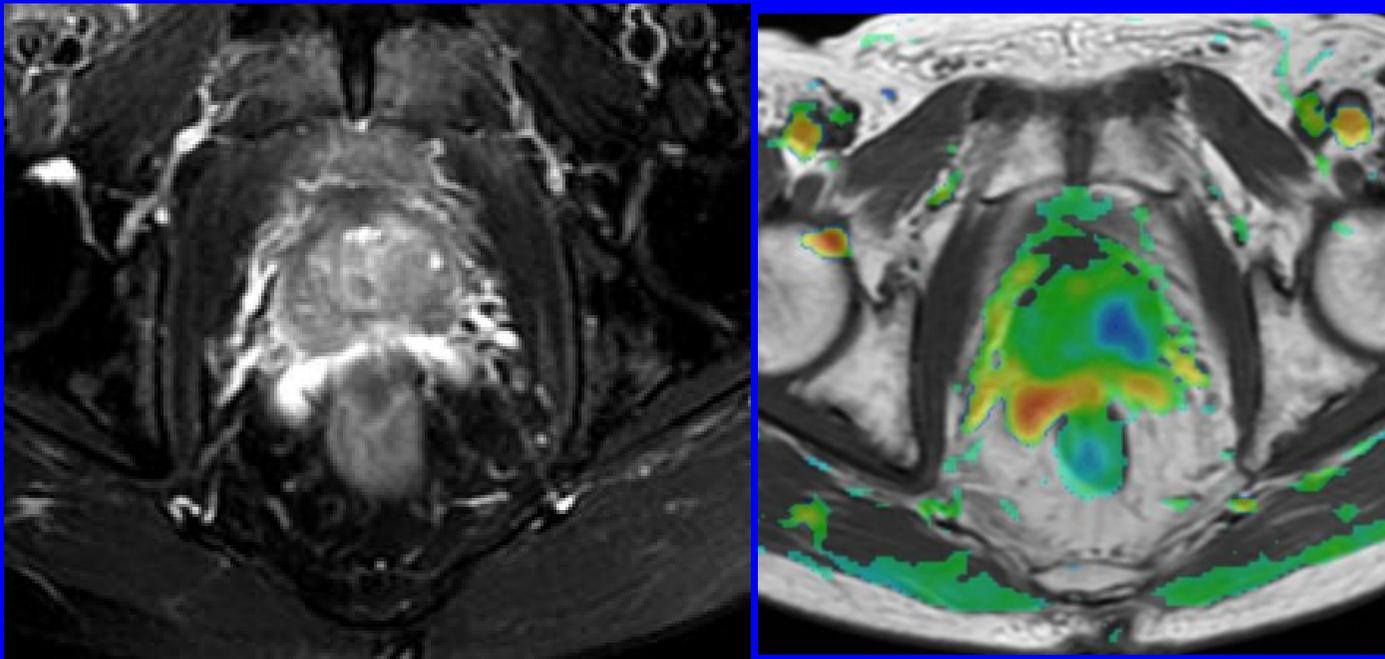
心臓遅延造影MRI



ガドリウム造影剤を注入して10分後に遅延造影をすると急性期から慢性期までの心筋梗塞病変が高信号 (late gadolinium enhancement :LGE)を示し、心筋梗塞の有無と拡がりを診断できる。

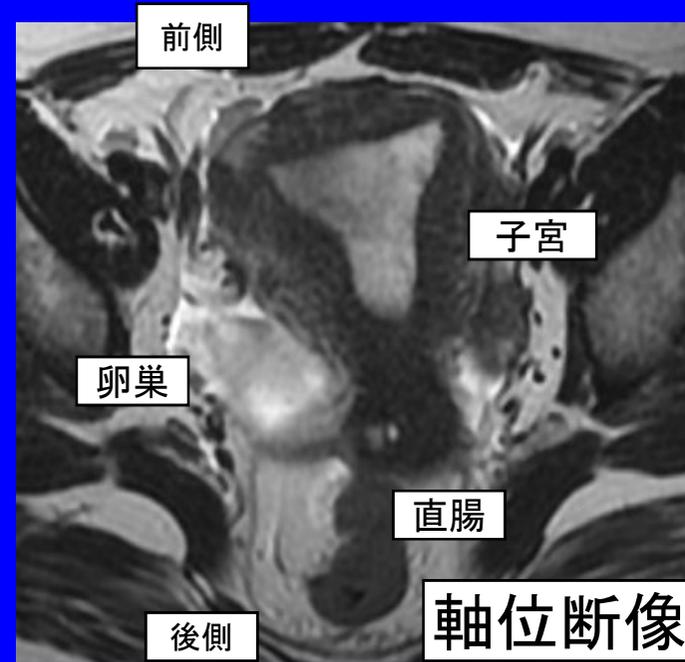
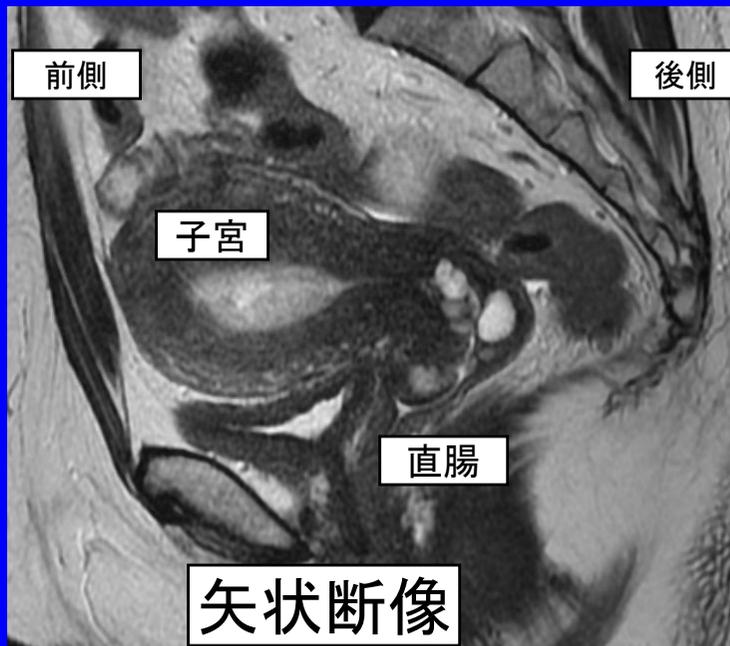
前立腺MRI画像

前立腺は、CTなどで診断は難しいですが、MRIの組織分解能の強さを生かした撮影で造影剤を使って撮影しております。



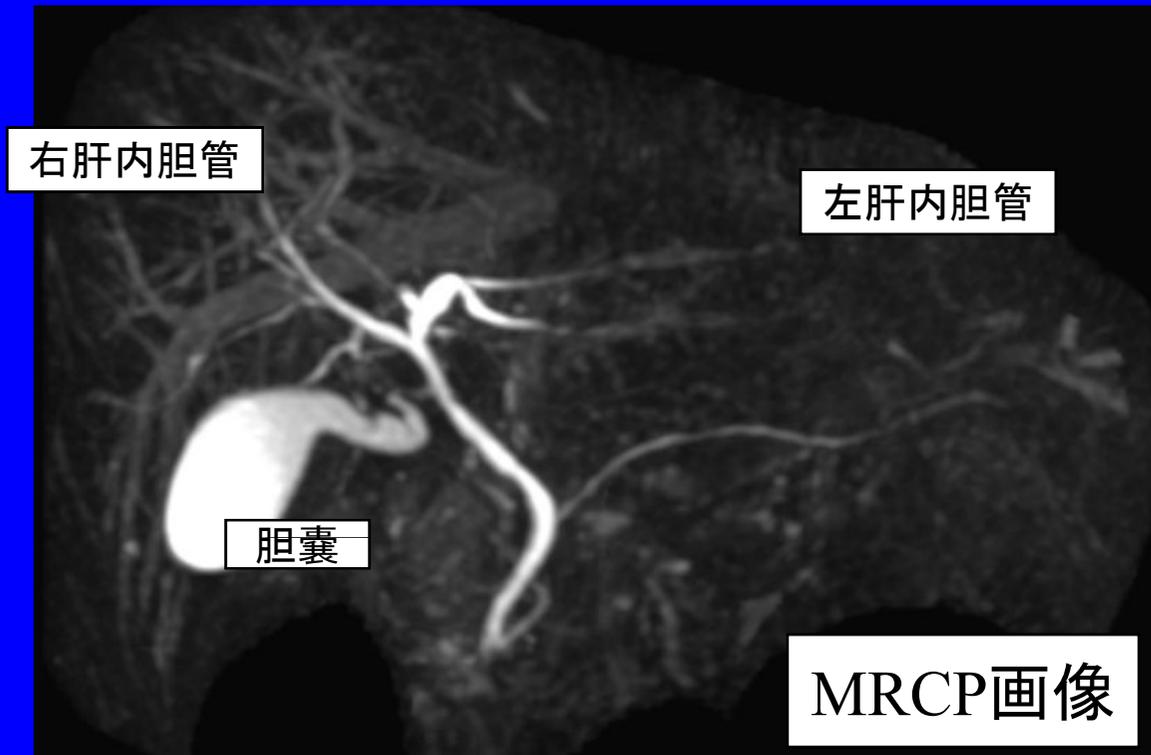
T2脂肪抑制画像とフュージョン画像(T1とディフュージョン)

骨盤腔MRI検査



骨盤腔検査の利点は、臓器の濃度差がはっきりしているため画像にすると見やすい、そして見やすい方向で撮影が出来ることです。

腹部MRI検査



MRCP画像は造影剤を使用しないで体の水成分を画像にする検査です。

この検査で、胆嚢内の結石などを検査します。

MRCP画像とERCP画像

